

愛難連 第49回大会

難病患者の 防災対策

2022年

9月19日(月)祝 13時30分～15時30分

参加無料 要お申込み/定員制

会場定員 80名/オンライン定員 100名

対象 難病患者・家族、支援者の方等

会場

- ウインクあいち 5階 小ホール2
- オンライン配信 同時開催 (Zoom)

名古屋市中村区名駅4丁目4-38
【JR名古屋駅桜通ロ ミッドランドスクエア方面 徒歩5分】

※新型コロナウイルス感染症の状況によりオンラインのみの開催へと変更となる場合がございます

講演

1

蒲郡市における災害時、停電対応の取組について

近藤 耕次先生 蒲郡市医師会 会長

講演

2

災害時、ALS患者が生き抜くために

稲垣 州隆さん ALS協会愛知県支部 会長

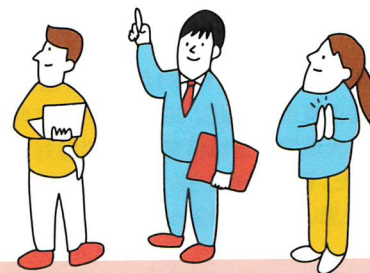
西尾 朋浩さん ALS協会愛知県支部 支部役員

講演

3

至上最強の防災アイテム

夏目 恵美子先生 修文大学看護学部 講師(災害看護学)



「新しい防災グッズ」

の展示も行います

主催

NPO法人愛知県難病団体連合会

後援

愛知県医師会/愛知県/名古屋市/愛知県共同募金会/中日新聞社/中日新聞社会事業団/
東海テレビ福祉文化事業団/中部善意銀行/愛知難病救済基金 (申請中を含む)

お申込み方法

どちらかの方法で
お申込みください

- 本文に ① 参加者氏名 ② メールアドレス ③ 電話番号 ④ 会場参加希望またはオンライン参加希望を記載し、ainanren@true.ocn.ne.jp宛にメールをお送りください。定員になり次第、受付終了といたします(先着順)。または

- 右のQRコードもしくはURLからお申込みください。定員になり次第、受付終了といたします(先着順)。



(エル)
<https://bit.ly/3Q3RBt1>



お問い合わせ

NPO法人 愛知県難病団体連合会

〒453-0041 名古屋市中村区本陣通5-6-1

✉ ainanren@true.ocn.ne.jp

地域資源長屋なかむら101 (担当:事務局 牛田・重松)

TEL 052-485-6655

FAX 052-485-6656

詳しくはWEBサイトへ

愛難連



難病患者の防災対策



2022年 9月19日(月)祝 13時30分～15時30分

ウインクあいち 5階 小ホール2

※新型コロナウイルス感染症の状況によりオンラインでの開催へと変更となる場合がございます

講師のご紹介

講演

1

蒲郡市における災害時、停電対応の取組について

近藤 耕次先生 蒲郡市医師会 会長

昭和37年7月	蒲郡市生まれ	平成5年4月	蒲郡市民病院内科着任
昭和62年3月	藤田保健衛生大学(現 藤田医科大学)卒業	平成13年4月	同 神経内科部長
昭和62年4月	名古屋第二赤十字病院研修医	平成14年3月	同 退職
昭和64年6月	藤田保健衛生大学病院研修医(神経内科局)	平成14年7月	こんどうクリニック開院
平成2年4月	藤田保健衛生大学大学院入学	令和2年6月	蒲郡市医師会会長就任
平成5年3月	藤田保健衛生大学大学院卒業		

講演

2

災害時、ALS患者が生き抜くために

稲垣 州隆さん ALS協会愛知県支部 会長

2013年6月発症、2014年1月確定診断、3月ALS協会入会、2017年愛知県支部長就任。2019年3月人工呼吸器装着。4年前に北海道が大地震で全域停電となり災害対策に取り組む必要性を感じました。確定診断を受けた時は58歳で定年後の楽しみ(趣味、旅行)を思い描いて頑張っていました。

西尾 朋浩さん ALS協会愛知県支部 支部役員

平成10年2月ALSで他界した母の縁で平成12年日本ALS協会愛知県支部の発足時、支部副会長就任、その後、支部事務局長、本部理事に就任、途中全ての役員を退任するが、令和4年6月より支部役員復帰。ALSの災害対策を重点に支部活動に取り組んでいる。

講演

3

至 strongest の防災アイテム

夏目 恵美子先生 修文大学看護学部 講師(災害看護学)

防災グッズはいろいろなところで販売されている。「防災セット」「防災バッグ」「手作り防災グッズ」・・・しかし、防災に関していろんな知識を得ようとしている「あなた」こそ、家族や友人たちにとっては最強の「防災アイテム」だと思います。最新の災害マップ、防災グッズなど紹介。また昨年改定された「避難情報に関するガイドライン(令和3年5月)」についても変更点をお知らせします。

プロフィール

大学病院救命センターで勤務し日本DMAT隊員を経験。災害関係の学会やNPO法人に所属し、東日本大震災や熊本地震、九州北部豪雨には医療班として福祉避難所、保健活動支援を行った。現在は災害関係の学会から防災に関する講習会のインストラクター、大学では災害看護を担当し「看護学生に自助・公助・共助を伝え、災害に強い医療人を育てる」を目標に教育を行っている。防災士でもある。